

MGU Chapel Letter

—第 57 号 2026 年 1 月 6 日— 発行：大学宗教センター

* 2025 年度 年間聖句 *

「あなたの御言葉は、わたしの道の光
わたしの歩みを照らす灯（ともしび）。」

詩編 119 編 105 節



1 月の大学礼拝スケジュール

【12 時 10 分～12 時 30 分 礼拝堂にて】

- ・ 1 月 7 日（水） 栗原 健 （大学宗教センター長）
- ・ 1 月 9 日（金） 長谷部弘 （学長）
- ・ 1 月 14 日（水） 松本 周 （一般教育部教授）

1 月の礼拝は 3 回だけです。注意しましょう。

2026 年度の年間聖句が決まりました！

正義が造り出すものは平和であり

正義が生み出すものは

とこしえに安らかな信頼である。

旧約聖書 イザヤ書 32 章 17 節

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL：022-279-9558

Email：christ-c@mgu.ac.jp

✦ ひとあしずつ ✦



2026 年が始まりました。2025 年度の大学生活も、あと 3 ヶ月だけです。新年の始まりにあたって、25 年度の宮城学院の「年間聖句」をふり返ってみましょう。これは、「あなたのみ言葉は、私の道の光 私の歩みを照らす灯（ともしび）」（詩編 119 編 105 節）です。

「あなたのみ言葉」、つまり神から与えられた聖書の言葉は、私の足もとを照らしてくれる灯火のようだ。私がつまずいたり転んだりしないように守ってくれる、恵みの明かりだ。この光に導かれて、自分は人生の道を歩んで行こう。これがこの言葉の意味ですね。

この一節を読んで、どのような光景を思い浮かべるでしょうか。行く先の道が明るく照らし出されて、迷いが無い。そのようなイメージを持つ人もいるかも知れません。けれども、注意したい点があります。ここで「歩みを照らす灯火」と言われているのは、夜道を歩く際に人々が持っていたランプのことでしょう。古代中東のランプは油を入れた小さな粘土皿でしかなく、明かりも薄暗いものでした。せいぜい足の周りを照らし出すだけで、先のほうまで見渡せるものではなかったはずですよ。

もしかしたら、それがこの言葉の大切なポイントかも知れませんね。

私たちの目には、1 歩先までしか見えないかも知れない。しかし、その 1 歩が与えられていることに感謝しながら、神の導きを信頼して次の 1 歩を踏み出す。先が見えない道であっても、そのように歩んで行く力を聖書の言葉は与えてくれる。この聖句から、そのようなイメージを得ることができます。

私たちはしばしば、自分の将来に不安を感じ、暗い夜道を歩んでいるように心細く思うことがあります。そんな私たちに対してこの言葉は、「先が見えなくても当然だよ。道が暗くても不思議ではないよ。人間は 1 歩ずつしか歩めないのだからね。今まで導いて下さった神の愛を信頼して、進み続けることが大切だよ」と励ましてくれます。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に、印象的な言葉があります。「なにがしあわせかわからないです。ほんとうにどんなつらいことでも、それがただしいみちを進む中のできごとなら、峠の上り下りも、みんなほんとうの幸福に近づくひとあしずつですから。」迷うことがあっても、それも道のりの一部、目的地に向かう「ひとあしずつ」なのだというのです。聖書の言葉に導かれて、そのように歩む 1 年にして行きましょう。（栗）